

これから、東日本大震災で亡くなられた方々へお祈りをする式を行います。

12分ほどの話をします。これまでの集会でも「命」についての話は何度かしてきました。今日も「命」に関係する話ですが、その中でも今年一番大切な命の話だと校長先生は考えていて、いつも以上に本気で話をします。少し長いですが本気で聞いて考えてください。静かに腰を下ろしましょう。

今から13年前の2011年3月11日、その日の午後2時46分、私たちの住む福島県、隣の宮城県や岩手県を中心に、ものすごく大きな地震が起きました。

子どもはもちろん、今庭坂小にいる先生全員、それどころか70歳80歳、何十年も生きてきた大人でも、日本に住んでいる誰もが経験したことのないほど、大きな、そして長い間揺れ続ける地震でした。

また、海ではこの地震が原因となった大津波も発生しました。

津波というのは、海で起きるもので、いつもの海に見られるふつうの波よりも大きく、そして強い力をもった波のことです。

どれくらい大きかったかという、高さで言うと20mを越え、高いところでは26mもあったという記録もあります。

体育館の天井を見上げてみてください。

庭坂小学校の体育館は真ん中の一番高いところでも13mほどです。

20mや26mというのですから、ここの天井よりももっともって背の高い波が押し寄せてきたということです。

そしてその大きな波の力はどれくらい強かったかという、私たちの住んでいるような普通の2階建てぐらいの家は、その形のままそっくりそのまま、簡単に津波に流され、やがて飲み込まれてしまうほどの威力がありました。

体育館の天井よりも高く、大きな家さえも飲み込んでしまうような巨大な津波でしたから、2時46分に起きた大きな地震によって命をなくす人よりも、そのあとに起きたこの津波によって命を落とす人の方が多かったのです。

この2011年3月11日 午後2時46分の地震と、それが原因となった津波でおきた災害のことを東日本大震災といいます。

さて、みなさん、想像してみてください。

ここの天井より高く大きな波が自分に近づいてくるということは、どれほど恐ろしかったことでしょうか。

昼間の時間で、多くの大人の方は会社などで働いている時間ですから、大好きなお父さんやお母さんは近くにいません。どれほど不安だったことでしょうか。

そして、あの日は地震の後、急に雪が降ってきました。どれほど寒かったことでしょうか。

3月の海の水は、まだ、どれほど冷たかったことでしょう。

まだまだ生きて、大好きな家族と楽しいことをしたり、おいしいものを食べたり、友達と遊んだりしたはずはです。どれほど悔しかったことでしょう。

その思いを本気で想像してみてください。

この後、亡くなられた方々へ黙祷を行います。

黙祷というのは心の中でお祈りをする事です。やり方は、英子先生の「黙祷」の号令を聞いたら、目をつぶり、軽く頭を下げ、心の中でお祈りをしてください。手は気を付けのままで、普通のお祈りをする時のように胸の前で両手を合わせてお祈りしてもどちらでも構いません。時間は1分間、英子先生の「やめ」という号令がかかるまでお祈りを続けてください。

ところで、「命」という漢字は「命令」の「命」と書きます。神様からの「生きなさい」という命令を受けて、この世に命をもらって、今生きているみんなが、この後の黙祷・お祈りが終わってからも、明日も明後日も、新しい学年になっても、中学生や高校生になってもできること、やらなければいけないこととは何でしょうか？

それは、もっと生きたいと思っていたのに、それがかなわず地震や津波で亡くなった方々をかわいそうと思ったり、そしてお祈りをしたりすることだけではありません。お祈りをする気持ちはとても大切なことですが、いくら一生懸命お祈りをしても、亡くなった命が戻ってくるわけではないからです。

だから、いつになってもできること、やらなければいけないこととは何か、それは、今ある命、元気に生きていられる命を大切にすることだと校長先生は思います。

「大切にする命」というのは自分の命だけではありません。すぐそばにいる友達、他人の命も同じです。東日本大震災で命を奪われてしまった方々は、地震や津波という自然の力によって命を奪われてしまいました。しかし、今、毎日毎日ニュースで流れてくるのは、自然の力ではなく、同じ人間が人間の力で、まだまだ生きようとしている命を奪っている映像です。世界の中には、今日もミサイルや爆弾、戦車、鉄砲など恐ろしい武器を使って人の命を奪っているところがあります。

これを聞いて「僕は、そんな恐ろしい武器なんか持っていないから、人の命なんて奪わないよ」と思った人はいないでしょうか。

そう思ったとしたら、それは大間違いです。勘違いしてはいけません。

みんなだって、人の命さえ奪ってしまう恐ろしい武器を持っているからです。

そんな恐ろしい武器とは・・・それは「言葉」です。

友達に何か言うときの言葉の使い方、いじわるな言葉、言葉によるいじめ、その言葉さえ使わない「無視」という行動、これらはみな、ミサイルや爆弾などと同じく、人が生きようとする

令和5年度 東日本大震災追悼全校集会校長講話 (R6.3.11)

元気をなくさせる、恐ろしい武器です。そんな武器は使ってはなりません、捨てなくてはなりません。

それがもっと生きてくても生きられなかった東日本大震災で亡くなった方々へ対して、今、命をもらって生きている私たちができることだと思います。

それが命を大切にすること、一生懸命生きることだと思います。

最後に、相馬市の小学生が書いた作文を紹介します。

相馬市は津波の被害にあった所です。1年生の時に書いたものようです。そして、書いてあることから考えると、今6年生の男の子の作文です。

では、読みます。

ぼくは、しんさいをしらない。

しんさいのとき ぼくは、おかあさんのおなかのなかにいたから。

でも、しんさいのはなしをきいて かなしいきもちになった。

ぼくは、ふくしまに げんきにうまれたから、これからも げんきいっぱいがんばる。

みんなも、今日の全校集會の話聞いてみて、また、震災で亡くなった人たちのいろいろな気持ちを想像して見て、自分や周りの人たちの命を大切にすること、一生懸命生きること、本気で考えてみてください。

では、黙禱の準備をします。

6年生、東日本大震災で津波の起きた海は何という海ですか。

5年生、その太平洋は庭坂小から見ると、東西南北のどの方角にありますか。

4年生、その東とは、体育館で言うとどっちの方向ですか。

では、全員立って、そちらを向きましょう。

そして、英子先生の黙禱の合図を待ちましょう。

(黙禱)

(やめ)

前を向きましょう。 これで校長先生の話が終わります。